



愛知工業大学
 愛知工業大学名電高等学校
 愛知工業大学附属中学校
 愛知工業大学情報電子専門学校

平成 29 年春季版

(平成 29 年 5 月 15 日)

※選手の所属・学年はいずれも取材当時のものです。

名電高生が世界の舞台上で金・銀メダル！

卓球世界ジュニア選手権で団体金（松山・木造選手）、混合ダブルス銀（松山選手）

パラバドミントンアジア選手権でシングルス銀（今井選手）

卓球の世界ジュニア選手権で、名電高校卓球部の松山祐季（3年）・木造勇人（2年）両選手が日本男子団体として金メダルに輝きました。同校バドミントン部の今井大湧選手（3年）も、パラバドミントンアジア選手権で男子シングルス銀メダルを獲得。2020年に開催される東京オリンピック・東京パラリンピックに向け、世界の舞台上で活躍する学園の生徒たちに期待が高まっています。



卓球世界ジュニア選手権で団体は男女アベック優勝（ITTF 提供）

18歳以下で争う卓球の世界ジュニア選手権は昨年11月30日～12月7日に南アフリカ・ケープタウンで開かれ、日本男子団体は大会10連覇中の中国を準決勝で破っている韓国と決勝で対戦しました。1番に起用された木造選手は3-1で、予選から活躍が際立った3番の松山選手も3-0で相手を下すなど韓国をストレートの3連勝で破り、日本男子団体として11大会ぶりとなる金メダルを獲得しました。松山選手は早田ひな選手と組んだ混合ダブルスでも銀メダルを獲得しました。

会場でプレーを見守った卓球部の今枝一郎監督は「松山は予選リーグで名電魂を存分に発揮して日本の窮地を救い、決勝まですべての試合に出場して全勝、まさに団体のMVPだった。木造は予選リーグ2敗と不調だったが、決勝で

私の『男になれ』という檄に応え、1番で格上の選手を倒し、一気に流れを引き寄せた。日本代表監督が『名電の選手は団体戦で力を発揮し雰囲気をよくする』とほめてくれた。混合ダブルスは決勝のセットカウント3-3から10-7とリードしながら逆転負けし、松山は悔しい思いはしたが、見事な銀メダルだった。移動に20時間以上かかる過酷な状況に負けず、選手たちは本当によく頑張った」とたたえました。



決勝の1番手で先制した木造選手（ITTF 提供）



優勝を決めた松山選手（ITTF 提供）

学園は2月27日、松山・木造両選手と今枝監督ら指導者に対して学園表彰を行いました。クラブ活動後援会からもお祝いがありました。（2面に続く）

一方、今井選手は昨年11月22～27日に北京で開かれたパラバドミントンアジア選手権に出場し、上肢障がい男子シングルスで準優勝しました。正垣源選手と組んだ上肢障がい男子ダブルスでもベスト8入りしました。

バドミントン部顧問の日詰彰則教諭は「決勝はインドネシアの選手と対戦して2-0で敗退。昨年6月に出場した北アイルランドでの国際大会もシングルス決勝で敗れた相手はインドネシアの選手だった。インドネシアや韓国、台湾、中国の強いアジア勢に打ち勝つスタミナとスキルを身につけることが、東京パラリンピックでメダルを目指す彼にとっての課題」と話しています。



今井選手は北アイルランド（昨年6月）に続き北京の国際大会でも銀メダル

3選手で知事を表敬訪問



大村・愛知県知事を後藤理事長らと表敬訪問した松山・木造・今井各選手

松山選手、木造選手、今井選手の3人は1月13日、後藤泰之理事長らとともに愛知県公館の大村秀章知事を表敬訪問し、大会の報告をしました。松山選手は春日井市、木造選手は一宮市、今井選手は津島市と3人も愛知県の出身で、昨年から東京オリンピック・パラリンピック強化指定選手（ジュニア）として県の支援を受けています。

表敬訪問には岩間博校長と今枝監督、日詰教諭が同行し、県側は大村知事のほか川島毅・県

民生活部長、荻原哲哉・学習教育部長らが出席しました。後藤理事長が県の支援に対するお礼を述べて「ぜひとも東京オリンピック・パラリンピックで愛知県の選手が一人でも多く活躍できますことを」と表敬の挨拶をし、松山選手が「今までにない緊張感や不安の中で優勝することができ、大きな経験になりました。これからもジュニアの成績に満足せずに頑張っていきます」、今井選手が「これからたくさんの国際大会を経験し、2020年につなげていきたいと思えます」と大会の報告をしました。これを受け、大村知事は「海外遠征のプレッシャーを乗り越えての素晴らしい結果。これを糧に2020年東京、2026年愛知県・名古屋市開催のアジア大会に向けて研鑽をつみ、素晴らしい選手になってください」とお祝いの言葉を述べました。

この後の懇談で、選手たちは「いつも通りのプレーと、さらにいつもより良いプレーができたことが優勝につながりました」「チャレンジャーの気持ちで思い切って国際大会に向かっていきました」などと大会を振り返り、この先の活躍を力強く誓いました。



後藤学園長・総長からのお祝いを手にした松山・木造選手

学園から温かなプレゼント

選手たち3人は、後藤淳学園長・総長や後藤泰之理事長にも優勝や準優勝の報告をし、その際、冬物のマフラーなどをプレゼントされました。

「これからも世界の舞台で活躍を」と励まされた選手たちは「自転車通学だから



後藤理事長からマフラーを贈られた今井選手

うれしいです」（松山、木造選手）「明日から着けさせていただきます」（今井選手）と、大喜びで温かなプレゼントへのお礼を述べていました。

中学高校そろって優勝！ 3年連続

附属中学校卓球部は第18回全国中学選抜大会の決勝（3月27日・山形総合運動公園体育館）で明豊（大分）を3-0で破り、大会5連覇を達成しました。名電高校卓球部も翌28日、大阪市中央体育館で開かれた第44回全国高校選抜大会の決勝で野田学園（山口）を3-2で下し、大会3連覇を成し遂げました。中高そろっての選抜優勝は3年連続です。学園は5月10日、両卓球部に対して学園表彰を行いました。

中学は5連覇、全国大会9連勝

附属中は、第1ステージ予選リーグの2試合をともに5-0で勝利しました。受けて立つプレーをする選手は1人もおらず、最初から最後まで攻める気持ちで他を圧倒するパフォーマンスを見せました。第2ステージの決勝トーナメントも1、2回戦をいずれも3-0で勝ち進み、準決勝で中間東（福岡）と対戦しました。

1番シングルスで小林広夢選手が相手のエースをストレートで破り、チームに大きな流れを呼び込みました。2番もエース曾根翔選手が勝ちましたが、3番ダブルスで篠塚大登選手・谷垣佑真選手が緊張からか全く力を発揮できず、セットオールで負けました。4番はキャプテン横谷晟選手が相手に襲い掛かるような気迫で相手の2番手を全く寄せ付けず、チームは3-1で勝利しました。

「相手も全国から選手を集めて中高一貫で強化する強豪。接戦も予想される中、練習会場で試合に向けて良い準備をしていた小林を1番に起用し、この勝利がやはり大きかったです」と真田浩二監督。

決勝の相手となった明豊も、中高一貫で選手を強化している名門です。ここでも1番小林選手が大きな働きをしました。相手のエースから1セット目を失い、2セット目も劣勢でしたが、終盤逆転勝ちをし、その勢いのまま3-1で勝ちました。2番曾根選手が勝ち、3番ダブルスは苦戦しましたが、終盤攻める気持ちを忘れずに最後まで戦った結果、チームは3-0で勝利しました。真田監督は「小林の逆転勝ち、ダブルスの接戦勝ちがなければ、5番ラスト勝負になっていました。春夏と連続優勝していますが、接戦で1本が取れての優勝ばかりです。緊迫した場面でも選手たちは冷静さと強い気持ちを失うことがなく、メンタルが成長しているのを強く感じました」と大会を振り返りました。



5連覇を達成した附属中卓球部



高校卓球部は3連覇・5回目V
（提供：ニッタクニュース）

高校は3年連続5回目のV

高校は予選リーグから失点する苦しい立ち上がりとなりました。「選手たちが互いによく補いあった」と今枝一郎監督が振り返る通り、総合力の高さで勝ち取った優勝でした。

強豪の遊学館（石川）と対戦した準決勝では、全国大会で高校生に1度しか負けていない2番の木造勇人選手が相手の出雲卓斗選手に0-3で敗れてしまいました。続く3番ダブルスでは木造選手・高見真己選手が相手の出雲選手・五十嵐史弥選手を3-0で破って流れを引き寄せ、4番田中佑汰選手の勝利によってチームは3-1で決勝進出しました。

決勝は、昨年に続いて野田学園との対戦に。1番で全日本2位の宮本春樹選手が敗れ、3番の木造選手と高見真己選手のエースダブルスもゲームの主導権を握れず1-3で敗れ、チームは1-2の劣勢となりました。ダブルスと同時に試合が始まった4番で、今大会ここまでシングルス全勝の田中選手が、苦手選手を相手にしながら3-0で勝利。ゲームカウント2-2で迎えた5番は高見選手が相手選手を全く寄せ付けず3-0で勝利し、チームの3年連続5回目の優勝をもぎ取りました。

今枝監督は「反省点の多い大会で、チームのいいところと悪いところが出ました。なかなか思いどおりにいかず、正直、今回は負けるかもしれないとも思いました。そうした中で選手が互いによく補って優勝してくれました。準決勝ではシングルの木造が負けましたが、ほかの選手たちが頑張り、決勝ではエースダブルスが負けましたが、4番の田中が頑張ってくれました。夏にはもっと苦しい試合があると思うので、さらに大きく強くなって迎えたいと思います」と、インターハイを見据えました。

高校フェンシング部 全国高校選抜大会で団体優勝



サーブル団体を制した選手たち

名電高校フェンシング部は3月18～20日に甲府市総合市民会館山の都アリーナで開かれた第41回全国高等学校選抜フェンシング大会で、男子サーブル団体優勝を果たしました。

大会は、第40回までフルーレの学校対抗戦だけを実施していましたが、世界での日本人選手の活躍により、今大会からエペとサーブルの学校対抗戦も実施されることになりました。

大会には17歳以下日本代表選手である尾矢陽太選手と、世界の大会も経験している平田佳史樹選手、加賀匠馬選手を中心に、宮地恭平選手、松田隆之介選手が加わる5人のメンバーで臨みました。

競技は、都道府県予選の優勝校が各地区予選に進出し、そこで上位に入った計24チームによるトーナメント戦となります。試合は、3選手対3選手があらかじめ決められた順番で9試合を行い、1試合目は5点まで、2試合目は10点まで…9試合目は45点までと、チームで積み重ねた得点を争う方式です。本校は昨年12月に行われた東海選抜で優勝していたため1回戦はシード。2回戦の一関第二（岩手）戦は45対22で順当に勝ち上がり、準々決勝で、本校とともに優勝候補と目されていた三本松（香川県）と対戦しました。

「6試合目終了時には19対30と11点差をリードされている展開でしたが、7試合目で加賀が5点、8試合目で平田が2点、9試合目で尾矢が4点差を逆転して、45対42で勝利しました。誰もが『三本松が勝ったな』と思う試合展開での大逆転でした」と、富田弘樹監督。

準決勝の玉野光南（岡山）戦は終始リードして45対32で勝利し、決勝に進出しました。決勝は羽島北（岐阜）との東海対決となり、最初こそリードを許しましたが、難なく逆転。45対33で優勝を果たしました。高校フェンシング部に対し、学園は5月22日に学園表彰を行う予定です。クラブ活動後援会からもお祝いが贈られます。

四方元幾選手が2回目の全日本制覇

大学競技スキー部の四方元幾選手（経営学科4年）が、3月に富山県南砺市・たいらスキー場で開かれた第37回全日本スキー選手権大会フリースタイル競技のモーグルで、初優勝しました。四方選手の全日本制覇は、昨年のデュアルモーグルに続いて2回目。今季の世界選手権で2冠を達成した堀島行真選手（中京大）や他のナショナルチームメンバーが出場している中で、価値ある優勝となりました。

2月に秋田県で開催されたフリースタイルスキーW杯・秋田たざわ湖大会でも、四方選手は8位に入賞。ワールドカップに参加して24戦目で、初の一桁順位となりました。この成績を受け、2017冬季アジア札幌大会（2月18～26日）の追加メンバーにも選ばれました。

もともと食が細かった四方選手は、外国人選手に負けないパワーをつけるために意識して食事を増加させ、筋力トレーニングの割合を高めることで、課題だったスピードにも対応できるようになりました。現在は2018年の平昌五輪出場を目指して雪上・陸上トレーニングに励んでいます。平昌五輪派遣選考で勝ち残れるかは「ギリギリのライン」（西裕之監督）といいますが、来季の全日本強化指定選手に決定し、夢に向かって一歩前進しました。



表彰される四方選手（1位の壇上左側）

大学競技スキー部も中部日本学生選手権準優勝

一方、大学競技スキー部は第62回中部日本学生スキー選手権大会（3月3～5日・長野県白馬村）で、団体男子総合準優勝を果たしました。

大会は中部地区の18大学98人が参加して開かれました。本学はアルペンの主力選手がけがで離脱して厳しい戦いとなった中、選手それぞれが力を発揮して自分の役目を果たし、特に溝口雄平選手（経営学科1年）は出場全種目でポイントを獲得して準優勝に大きく貢献しました。

個人では大回転で溝口選手が3位、回転で熊谷和真選手（経営学科3年）が6位、スーパー大回転で溝口選手が5位、山本翔也選手（機械学科3年）・篠田貴都選手（応用化学科3年）・熊谷選手・溝口選手が出場したリレーが3位の成績でした。



溝口選手の滑り

全日本卓球選手権でも“名電旋風”

東京体育館で1月16～22日に開かれた全日本卓球選手権大会に大学、高校、附属中各卓球部の選手たちが出場し、ジュニア男子（シングルス）で1～3位の表彰台に上るなど“名電旋風”を巻き起こしました。

このうち大学は、男子シングルスで決勝に勝ち上がった吉村和弘選手が、第一人者の水谷隼選手（beacon.LAB）を相手に1ゲームを先取するなど善戦し、準優勝を飾りました。



シングルス準優勝の吉村和弘選手
（提供：卓球レポート）

男子ダブルスでも藤村友也・吉村和弘選手ペアが木造勇人・松山祐季選手の名電高ペアを制して決勝へ進み、丹羽孝希・酒井明日翔選手の明治大ペアとの大接戦の末に準優勝となりました。

このほか男子ダブルスで、水谷隼選手と組んだ吉田雅己選手が3位、ダブルス準優勝の藤村（左）・吉村選手上江洲光志・松下大星選手ペアがベスト16、男子シングルスで吉田



（提供：卓球レポート）

雅己選手がベスト32、混合ダブルスで藤村友也・楠川愛子選手ペアがベスト16、女子ダブルスで楠川愛子・石田葵選手ペアがベスト16の成績でした。

高校は、ジュニア男子で木造勇人選手が大会2連覇を成し遂げたほか、宮本春樹選手も準々決勝で優勝候補筆頭の張本智和選手（JOCエリートアカデミー）破る金星を挙げて準優勝。3位には高見真己選手が入賞し、名電として初めて1～3位の表彰台に上りました。

高校の選手たちは一般の部でも活躍し、木造勇人選手が男子シングルス



ジュニア男子2連覇の木造勇人選手
（提供：ニッタクニュース）

準々決勝で水谷隼選手と対戦、1-4とかなわなかったものの、名電として25年ぶりとなる高校生ベスト8入りを果たしました。さらに男子ダブルスで木造勇人・松山祐季選手ペアが3位、混合ダブルスで田中佑汰選手が姉の田中千秋選手（早稲田大）と組んでベスト8と注目を集めました。このほか男子シングルスで高見真己選手がベスト32、ジュニア男子で田中佑汰選手がベスト16の成績を収めました。学園は2月27日、木造選手に対して学園表彰を行いました。



ジュニア1～3位の木造・宮本・高見各選手
（提供：ニッタクニュース）

吉村和弘選手が第26回日本卓球リーグ・ビッグトーナメントで優勝

大学卓球部の吉村和弘選手（経営学科3年）が4月8日、茨城県日立市池の川さくらアリーナ・市民運動公園総合体育館で開催された第26回日本卓球リーグ・ビッグトーナメント茨城大会（日本卓球リーグ実業団連盟主催）の男子シングルスで優勝を飾りました。

日本卓球リーグ・ビッグトーナメントは、前回大会優勝者・2017世界選手権大会日本代表選手・外国人推薦選手のほか、平成28年度全日本選手権ランキングベスト16の上位者や平成28年度全日本社会人選手権ベスト4選手、日本リーグ推薦者からなる、日本卓球界のトップ選手男女各20人による国内最高レベルの個人戦です。

試合はトーナメント方式で進められ、1月に全日本選手権大会男子シングルスで準優勝した吉村選手が実力を発揮して頂点に立ちました。



日本卓球リーグ・ビッグトーナメントを制した吉村和弘選手
（提供：日本卓球リーグ実業団連盟）

高校吹奏楽部・中学卓球部・大学女子卓球部を学園表彰

高校吹奏楽部
全日本マーチングコンテスト金賞

中学卓球部
全日本選手権・ダブルス優勝

全日本マーチングコンテストで金賞に輝いた高校吹奏楽部と、全日本選手権でダブルス優勝を勝ち取った中学卓球部に対する学園表彰が昨年12月21日、若水キャンパスで行われました。

高校吹奏楽部は昨年11月20日、大阪市の大城ホールで開かれた第29回全日本マーチングコンテストに出場し、5年ぶり7回目となる金賞に輝きました。演奏曲はフィリップ・スパークの「ドラゴンの年」で、十字形から次々と隊形を組み替えてゆく迫力のパフォーマンスを披露し、会場のマーチングファンを沸かせました。

中学卓球部は昨年11月19～21日に山梨県の小瀬スポーツ公園体育館で開かれた全日本選手権（カデットの部）に出場し、男子ダブルスで横谷晟・篠塚大登選手のペアが優勝しました。さらに同種目で、部員たちがベスト4を独占する活躍を見せました（準優勝＝曾根・小林、3位＝大島・岡野、4位＝白山・谷垣）。



全国の頂点に立った高校吹奏楽部員・中学卓球部選手たち

クラブ活動後援会からも激励

表彰式は南校舎地下1階の多目的ホールで行われ、後藤泰之理事長から指導者と部員代表や選手に表彰状などが手渡されたほか、クラブ活動後援会の辻本昌孝副会長からも激励が贈られました。また、出席した部員全員に後藤理事長からお菓子のプレゼントがありました。

後藤理事長は挨拶の中で、高校吹奏楽部員たちの礼儀正しい行いがマーチング練習先の公共施設の関係者を感動させたという話を紹介し「そうした気持ちをこれからも大事にしてください」と呼び掛けました。また、中学卓球部のベスト4独占は高校卓球部のインターハイの活躍を思い起こす快挙として「東京オリンピックにつながる活躍を」と激励しました。辻本副会長も期待を込めてお祝いの言葉を述べました。

続いて指導者による報告があり、高校吹奏楽部の伊藤宏樹顧問が「吹奏楽部はマーチング、座奏、コンサートという3チームに分けて活動しています。他の学校が上手な子ばかりを選抜して大会に臨むところを、私たちは全員がレギュラーであるという思いのもとに取り組んでいます。心と技術が伴うクラブを心がけ、これからも精進していきます」と誓いました。中学卓球部の真田浩二監督も「ダブルスは13～14歳という年齢には難しい種目ですが、試合の中で一戦一戦、連携プレーがうまくいくようになりました。シングルスでも2年生の曾根と小林が、それぞれ2位と3位入賞という結果を残しています。今後も東京五輪、さらにその先の4年後とつながっていくよう、目的を持って取り組みます」と決意を語りました。

部員、選手からも報告があり、マーチングでドラムメジャーを担当した高校吹奏楽部の神野稜大君と、中学卓球部の横谷・篠塚両選手が、支えてくれた人々へのお礼とともに、これからの活躍に向けた言葉を述べました。

表彰されたのは次の皆さんです。

【高校吹奏楽部】

伊藤宏樹顧問、小林知宏顧問、鈴木裕子顧問、梶山宇一顧問、部員81名

【中学卓球部】

真田浩二監督、今枝一郎顧問、増田朗顧問、董崎岷・外部コーチ（感謝状）、横谷晟選手、篠塚大登選手



挨拶する辻本副会長

大学女子卓球部 全日本大学選手権・ダブルス優勝



後藤淳学園長・総長、後藤泰之理事長を囲んで、大学女子卓球部の選手ら

昨年10月27～30日に長野市真島総合スポーツアリーナで開かれた「第83回全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）」で、部として35年ぶり5組目となる女子ダブルス優勝を果たした大学女子卓球部に対し、学園は12月20日に学園表彰を行いました。

女子ダブルスで優勝したのは、楠川愛子選手（経営学科3年）・石田葵選手（同1年）のペア。

ノーシードから出場し、全84組の頂点に立ちました。3回戦から準決勝までは専修、早稲田、同志社、中央各大学の強豪を相手に、いずれもゲームカウント3-2の大接戦を制して勝ち上がりました。

表彰式は八草キャンパス本部棟で行われ、大元司監督、鬼頭明顧問と楠川・石田両選手に後藤泰之理事長から表彰状などが手渡されたほか、クラブ活動後援会からも激励が贈られました。

後藤理事長は「周りからミラクルと言われるかもしれませんが、実力が伴ってのミラクルです。次の大会からはプレッシャーに打ち勝ち、またぜひ優勝を目指してください」と期待を込めて挨拶しました。これを受けて大元監督が「これを機会に卓球部女子として全員が頑張っていきます」、楠川選手も「これからも頑張りますので応援をお願いします」と今後の活躍を誓いました。

表彰式には部員全員が出席し、式の後に後藤理事長、後藤淳学園長・総長を囲んで歓談。振る舞われたケーキを味わいながら新しい年に向けて英気を養いました。

28年度の後藤鉀二賞はクラブ活動に貢献の3氏も



後輩たちにアスリートの心構えを説く工藤監督

名古屋電気学園の平成28年度後藤鉀二賞を授与された5氏の中には、工藤公康・福岡ソフトバンクホークス監督、今枝一郎・高校教諭（卓球部監督）、卓球の吉村真晴選手（名古屋ダイハツ）のクラブ活動で実績を残した卒業生3氏が含まれます。工藤公康監督は授賞式後、名電高校2階サテライト教室に場所を移し、母校の後輩たちと交流の時間を持ちました。

交流に参加した生徒は、普通科スポーツコースで学ぶ1～3年生約100人。一流のアスリートを目指す後輩たちと真摯に向き合い、工藤監督はこれまでの経験を土台に、1時間近くに及ぶ「授業」をしました。高校時代に立てた人生設計やプ

ロ入り後に思い知った自分の実力、米国への野球留学で学んだハンガリー精神など、後輩たちに質問しては生の声を聞き出し、自分の考え方を述べていくスタイルで、次々と語りかけました。「現状と理想のギャップを埋めるにはどうすればいいかを、どれだけ時間をかけて考えられるか。一流になれるかなれないかの違いは、たかだかそれぐらいです。自分の限界を考えるのではなく、この先にある未来に絶対に制限をつけないという考え方で」と、アスリートとして長く生きていくための心構えを説きました。

「授業」の終わりに、野球部が工藤監督の野球殿堂入りを祝って作成したレリーフが工藤監督に手渡されました。工藤監督はこの後、高校時代に約13キロの道のりを走って通ったという春日井市の野球部グラウンドに足を運び、球場にレリーフが飾られる様子を見届けました。

後藤鉀二賞の授賞式では、工藤監督が「学園の出身であることを誇りに野球道を邁進したい」、今枝教諭が「中学・高校・大学とお世話になった学園に恩返しができればと教員になり、頑張ってきました」、吉村選手が「大学の4年間で、人間として大きく成長させてもらいました」と、それぞれ謝辞を述べました。



謝辞を述べる今枝教諭



謝辞を述べる吉村選手

ロケット研究会 種子島ロケットコンテストで優勝



永田君（左）と三木君

3月2～4日に鹿児島県・JAXA 種子島宇宙センターなどで開催された第13回種子島ロケットコンテストで、大学ロケット研究会（顧問・今野彰機械学科教授）のチーム「なちゅポテAIT」の三木一慶君、永田真也君（いずれも機械学科1年）がロケット部門（高度）で優勝しました。チーム名の「なちゅポテAIT」には、本学八草キャンパスの所在地である豊田市の名産品「自然薯」の英語名「Natural Potato」にちなみ、「自然薯のように粘り強く試行錯誤し、自然薯のようにまっすぐ、高く飛ぶロケットを設計して作る」という願いが込められています。

コンテストには、北海道から鹿児島までの大学・高専から約250人が参加しました。ロケットの高度が250mを超えると航空法に基づき県知事の打上許可が必要になるため、最終形態のロケットが実際にどのくらい飛ぶのか実証ができない中、高度を得るため徹底的に軽くすることと、空気抵抗を減らすことに注力し、設計とものづくりを工夫しながら、計算から推測して300mを超えることを目標にコンテストに挑戦しました。本番では見事に目標を超える高度339mを記録し、2位（高度301m）に大差をつけての優勝となりました。競技後の他大学とのワークショップで技術交流をした結果、本学ロケットの軽さが群を抜いていることがあらためて確認できました。

競技はロケット部門とペイロード（CanSat）部門があり、書類審査を経てロケット部門に29チーム、ペイロード部門に30チームが選ばれました。本学からはロケット部門の「高度」とペイロード部門に応募しましたが、ペイロード部門は残念ながら書類審査で落選。今野教授は「来年はペイロード部門でも頑張りたい」と話しています。

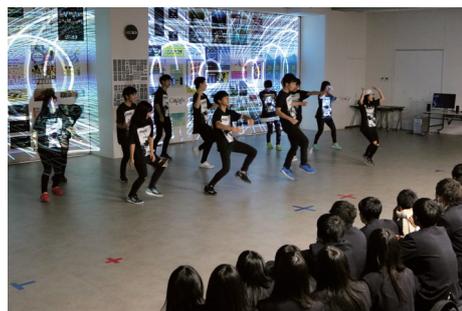


表彰される「なちゅポテAIT」

創部10年目のAMIDC展

昨年で創部10年目を迎えた高校情報デザイン部が12月21～23日、記念の「AMIDC(AIT Meiden High School Information Design Clubの略称)展」を若水キャンパス淳和記念館1階・2階オープンラボで開きました。

同部は学校行事のポスターやパンフレット制作、各クラブのプロモーションビデオ、外部団体からの依頼による映像制作などに取り組んでおり、これまでに全国高等学校パソコンコンクール（パソコン甲子園）デジタルコンテンツ部門のグランプリ（2006年）、準グランプリ（06、08、12年）などの賞を獲得しています。



ダンス同好会とコラボしたパフォーマンス

AMIDC展では1階にポスターなどの平面作品を主に展示し、2階に動画視聴やゲーム作品のブースを設けました。会場には教職員、生徒、保護者や近隣の住民らが足を運び、自主性と創造力に富んだ約200点の作品に興味深げに見入っていました。

2日目の22日には、他の部活とコラボした2つのイベントを繰り広げました。ダンス同好会とのコラボでは、日本高校ダンス部選手権全国大会スモールクラスでストリートダンス協会賞を受賞している同好会が、華麗な光と色彩の投射の中、迫力のダンスパフォーマンスを披露しました。続いて、座奏やマーチングで幾度も全国の頂点に立っている吹奏楽部とのコラボがあり、吹奏楽部の素顔を紹介する和やかムードの動画をバックに「HAPPY」「ディープ・パープル・メドレー」の2曲が演奏されました。

期間中は来場者に協力を呼びかけ、一人ひとりの立ち姿を4方向から撮影。立体感のある映像作品に仕上げ、最終日の23日夕刻に淳和記念館外壁に映してフィナーレを飾りました。



多彩な活動を紹介する展示



吹奏楽部とのコラボは演奏と動画の共演

高校吹奏楽部第 52 回定期演奏会

学園が主催する名電高校吹奏楽部の第 52 回定期演奏会は 2 月 4 日、名古屋国際会議場センチュリーホールで昼夜 2 部にわたって開かれました。

プログラムは、伊藤宏樹教諭指揮による 4 部構成。第 1 部で本年度全日本吹奏楽コンクールの課題



圧巻の演奏を繰り広げた第 52 回定期演奏会

曲「マーチ・スカイブルー・ドリーム」と自由曲に選んだ「モンタニヤールの詩」を演奏したのちに続いて、映画音楽の第一人者であるジョン・ウィリアムズの名曲などを次々と披露しました。

全日本吹奏楽コンクール高校の部に全国最多 39 回出場を果たしている同部は、本年度も「西日本バンドフェスティバル in 広島」に出演するなど幅広く活躍しています。昼夜共に客席を埋めた吹奏楽ファンは華麗な演奏に聴き入り、同部の新レパートリー曲のタイトルそのままの「HAPPY」な笑顔で会場を後にしました。

AITEP チーム Ene-1GP で部門 2 位

ソーラーカーの製作やレース出場に取り組んでいる本学のクラブ AITEP(電気工学研究会)のチーム＝写真＝が、昨年 12 月 10 日に栃木県茂木町の「ツインリンクもてぎ」で開かれた「2016Ene-1GP MOTEGI」に出場、大学・高専・専門学校の部門で 2 位となりました。この GP は単 3 電池 40 本を動力源にどこまでエネルギーマネジメントを追求した走りができるか競い合うもので、スーパースピードウェイ 1 周 (2.414^{km}) をどれだけ速く走ることができるかの「ONE LAP タイムアタック」と 90 分間で何周走行できるかの耐久レース「e-kiden ロングディスタンス」という 2 つの競技の総合成績で順位を争います。

全長 2900mm、全幅、車高ともに 600mm、重量約 22kg の車体にドライバーが乗り込み運転します。電池 40 本の組み合わせ方は自由で、AITEP は 10 本直列につないだ電池を 4 列用意し、並列に組み合わせました。



中部学生ゴルフ選手権でベスト 10 に 3 選手

大学ゴルフ部が参加した第 55 回中日杯争奪中部学生ゴルフ選手権 (4 月 18 ~ 19 日・貞宝カントリークラブ) で、経営学科 2 年の北野貴哉選手が 8 位、同 3 年の河合和真選手が 9 位、同 2 年の小田将吾選手が 10 位にそれぞれ入賞しました。大会には 11 人が出場して 7 人が予選を通過、次のステージとなる東海テレビ杯への出場を決めました。

洋弓部が創部 50 周年祝う

大学洋弓部の創部 50 周年を祝う記念行事が 12 月 3 日、八草キャンパスのアーチェリー場で開かれました。



洋弓部は昭和 41 年 12 月に

記念植樹する澤田文夫・初代主将 (左) と山田英介副学長

同好会として発足し、翌 42 年に部に昇格しました。同 57 年に全日本学生アーチェリー王座決定戦で団体準優勝を飾り、平成 18 年には全日本ターゲットアーチェリー選手権大会で松井寛和選手が準優勝しました。また、近年も毎年全国大会に出場しています。

記念行事には OB と部員ら 30 人が出席し、アーチェリーの「チェリー」と 50 周年の「5」にちなんで桜の苗木 5 本を射場内に記念植樹しました。

続いて OB を代表して初代主将の澤田文夫さんが挨拶に立ち、創部時に初代学園理事長の故後藤鉦二先生や前理事長の後藤淳先生の力添えを得ながら練習場を整備した思い出などを語りました。来賓の山田英介副学長と、創部時から指導に協力した山田陽清・名古屋市アーチェリー協会副会長



記念の試射をする部員とOB

もお祝いの言葉を述べました。

最後に部員 3 人と OB 1 人で 70 メートルの試射を 6 本ずつ行い、部のますますの発展を祈願しました。

高校9クラブ・中学3クラブ

クラブ表彰



この春から夏にかけて全国大会出場の高校9クラブと中学3クラブが3月15日、学園のクラブ表彰を受けました。若水キャンパス南校舎多目的ホールで、各部の顧問や部員代表が後藤泰之理事長から激励金を手渡されたほか、クラブ活動後援会、同窓会、PTAからも激励が贈られました。後藤理事長は「一つでも上を目指し、全国で名電高校、附属中の名を高めてください」と励ましの言葉を贈りました。

表彰されたクラブは次の通りです。

- 平成28年度全国高校選抜卓球大会
高校卓球部 団体7人 (大阪市中央体育館・3月25～28日)
- 第41回全国高校選抜フェンシング大会
高校フェンシング部 団体13人 (甲府市総合市民会館・3月18～20日)
- 第22回全国私立高校男女バレーボール選手権大会
高校バレーボール部 団体18人 (町田市立総合体育館ほか・3月21～24日)
- 平成28年度全国高校相撲選抜大会
高校相撲部 団体個人6人 (高知県立春野運動公園相撲場・3月18～19日)
- 第32回全国高校ウェイトリフティング競技選抜大会
高校ウェイトリフティング部 個人1人 (金沢市総合体育館・3月25～28日)
- 平成28年度全国高校選抜自転車競技大会
高校自転車競技部 個人2人
(熊本県菊鹿地区特設ステージ、福岡県久留米競輪場・3月25～29日)
- ロボカップジャパンオープン2017 ぎふ・中津川
高校メカニカルアーツ部 団体個人7人 (東美濃ふれあいセンター・3月24～25日)
- 第41回全国高校総合文化祭
高校写真部 個人1人 (せんだいメディアテーク・7月31日～8月4日)
- 平成28年度全国高校ゴルフ選手権春季大会
高校ゴルフ部 個人1人
(滋賀県富士スタジアムゴルフ倶楽部南コース・3月26～30日)
- 第18回全国中学選抜卓球大会
中学卓球部 団体8人 (山形総合運動公園体育館・3月26～27日)
- 第54回全国中学校スキー大会
中学スキー部 個人2人
(アルペン＝山形県赤倉温泉スキー場、クロスカントリー＝山形県秋山クロスカントリーコース・2月2～5日)
- ロボカップジャパンオープン2017 ぎふ・中津川
中学メカニカルアーツ部 個人2人 (東美濃ふれあいセンター・3月24～25日)

高校スキー部

学園は2月20日、全国大会に出場の高校スキー部をクラブ表彰しました。同部は平成28年度全国高校総体(2月2～6日・尾瀬ほたか高原スポーツパーク)に4人、「第29回全国高等学校選抜スキー大会(ノルディック種目)」(2月24～27日・野沢温泉南原クロスカントリーコース)に1人が、それぞれ出場しています。南校舎学監室で、後藤泰之理事長が顧問や部員代表に激励金を手渡したほか、クラブ活動後援会、PTA、同窓会からも贈られました。後藤理事長は「名電代表として頑張ってください」と期待の言葉をかけました。



高校吹奏楽部・ボウリング部・将棋部

学園は昨年11月15日、同年秋から今春にかけて全国大会に出場した高校の3クラブをクラブ表彰しました。北校舎校長室で後藤尚之事務局長が各部の顧問や生徒に激励金を手渡したほか、クラブ活動後援会、同窓会からも贈りました。後藤事務局長は「ふだんの力をいかに発揮して全国で良い結果を」と期待の言葉をかけました。

表彰されたクラブと出場の大会は次の通りです。

■第29回全日本マーチングコンテスト

吹奏楽部 団体80人（大阪城ホール・11月20日）

■文部科学大臣杯第23回全国高校対抗ボウリング選手権大会

ボウリング部 団体4人（川崎グランドボウル・12月23～25日）

■第25回全国高校将棋新人大会

将棋部 個人1人（国立オリンピック記念青少年総合センター・2月3～5日）



クラブ表彰



大学フェンシング部

学園は3月2日、全国大会に出場した大学フェンシング部をクラブ表彰しました。同部は昨年12月23～25日に愛媛県伊予三島運動公園園体育館で開かれた「第69回全日本フェンシング選手権大会（団体戦）」に4選手が出場し、男子サーブルでベスト8の成績を収めました。

表彰式は八草キャンパス本部棟で行われ、後藤泰之理事長が石井成美顧問らに激励金を手渡して「さ

らに上の成績を、できれば一番を目指してください」と期待の言葉をかけました。クラブ活動後援会からも激励が贈られました。

大学生の課外活動表彰

対外活動で優秀な成績を収めた本学の団体・個人に対する「平成28年度 課外活動表彰式」が3月15日、八草キャンパスAITプラザ3階会議室で行われ、山田英介副学長から表彰状・記念品が贈られました。山田副学長は「皆さんの今後の活躍で、本学がさらに元気づけられることを期待します」と学生たちを激励しました。

表彰されたのは次の皆さんです。

●団体

▽フェンシング部 五定寛司（卒業生）、清岡直明、島田翔大、南大地

第66回全日本学生フェンシング王座決定戦サーブル団体第3位、第66回関西学生フェンシングリーグ戦（1部リーグ）サーブル団体優勝

▽フェンシング部 上野克己、山崎凌、浦田尚吾、島田翔大、佐々木拓海

第66回全日本学生フェンシング王座決定戦フルール団体第3位、第66回関西学生フェンシングリーグ戦（1部リーグ）フルール団体優勝、第66回関西学生フェンシング選手権大会フルール団体優勝

▽ヨット部 手島遥貴、鈴木空、石黒武志、末永征覇、兵藤麗奈、別所陸太

2016年度秋季中部学生ヨット選手権大会470級優勝

●個人

▽卓球部 楠川愛子、石田葵 第83回全日本大学総合卓球選手権大会個人の部女子ダブルス優勝

▽陸上部 植松達也 第82回東海学生陸上競技対校選手権大会男子3000m障害優勝

▽競技スキー部 四方元幾 FISワールドカップたざわ湖大会男子モーグル競技8位入賞

▽ラグビー部 永田雄也 2016東海学生ラグビーA1リーグベスト15ポジションFB（フルバック）選出

▽弓道部 桐生有希 第60回東海学生弓道秋季リーグ戦女子個人準優勝

▽ヨット部 鈴木空、石黒武志 2016年度中部学生ヨット個人選手権大会470級優勝



表彰される学生たち

大学硬式野球部 奥田前監督退任・平井新監督就任

OB 会が慰労と激励の会を開く

愛知工業大学硬式野球部を30年近くにわたって率いた奥田好弘前監督が昨年12月31日付で退任し、本学OBで元ロッテの平井光親新監督が1月1日付で就任しました。野球部OB会は4月1日、奥田前監督を慰労し平井新監督を激励する会を名古屋市内のホテルで開きました。

野球部OBである奥田前監督は卒業3年目の1989年、秋のリーグ戦の途中からコーチとして監督を代行し、チームを率いることになりました。最初のシーズンの90年春に1部優勝を飾り、92年春に正式に監督に就任。以後、92年春、94年春、96年春秋連覇、



野球部マネージャーから花束を贈られる奥田好弘前監督



挨拶で感謝を述べる奥田前監督

99年秋と、指導者としてチームを計6度の1部優勝に導きました。

平井新監督は、在学時に1部で5回優勝を経験し、首位打者1回・最優秀選手1回・ベストナイン5回をそれぞれ受賞、明治神宮大会で85年準優勝、86年優勝を飾ったチームの黄金時代の一員です。ロッテ時代の91年にはパ・リーグ首位打者を獲得し、引退後もプロアマ各方面の指導者として力を発揮してきました。

前・新両監督を慰労・激励する会は、OB会員や後藤泰之学長、服部洋児野球部長ら80人が出席して開かれました。久木崎恭巳OB会長が、挨拶で奥田前監督への感謝と平井新監督への期待の言葉を述べ、現役とOBの結束を呼びかけたのに続き、後藤学長が祝辞の中で、現在は2部リーグに甘んじている野球部の1部復帰と悲願の優勝に向けて奮起を促しました。

記念品と花束を贈られ、挨拶に立った奥田前監督は、チームを任された当時を「昼間部と夜間部の学生が混在して生活パターンに違いがあり、私も大学の職員として勤めていたので一日が長く張りつめていました」と振り返りつつ「後藤淳理事長（当時）から『学内の皆さんに応援してもらえるような指導をしなさい』



挨拶する久木崎OB会長



チームの再建を誓う平井光親新監督

とお言葉を頂戴し、私なりに尽くしてまいりました。

選手に教えられ、鍛えられ、長きにわたり指導に携わらせていただいたのは多くの皆さんのおかげです」と感謝の言葉を述べました。

服部部長の発声で乾杯し、和やかに歓談した後、OB会贈呈品のスピードガンの目録が久木崎会長から平井新監督に手渡されました。挨拶に立った平井新監督は「1部リーグ復帰のために一生懸命練習に励んでいます。OBの皆さんもぜひ時間があれば球場に足を運び、選手に熱い声援を送ってください。今年中に何とか1部復帰を目指して頑張ります」と力強くチームの再建を誓いました。



祝辞を述べる後藤学長

卒業生の活躍

大学野球の関西学生リーグ第6節第1日で、立命館大4年の東克樹投手（愛工大名電高出身）が自身で2度目となる無安打無得点試合を達成しました。複数回の無安打無得点試合達成は同リーグでも初となります。

試合は5月5日の関西大戦で、東投手が許した走者は一回の四球による1人だけ。6者連続を含む毎回の奪17三振でリーグ初の快挙を飾りました。

発行 名古屋電気学園クラブ活動後援会・学園事務局総務部